

令和6年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

初等教育教員養成課程
人文・社会教育プログラム

注意事項

1. 解答は、すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること。
2. 解答紙には必ず受験番号を記入すること。

【問】 次の文章を読み、「否定する」ことの意義や必要性、効果的な「否定の仕方」について、あとの条件にしたがって、あなたの考えを述べよ。「否定」の意味は、次の文章中で用いられているものを前提とする。

【文章】

自分の考えに自信をもち、これでよいのだと自分に言いきかせるだけでは充分でない。ほかの人の考えにも、肯定的な姿勢をとるようにしなくてはならない。どんなものでもその気になって探せば、かならずいいところがある。それを称揚する(注1)。

よくわからないときにも、ぶっつけに、
「さっぱりわかりませんね」
などと水をかけるのは禁物である。

「ずいぶん難しそうですが、でも、何だかおもしろそうではありませんか」
とやれば、同じことでも、受ける感じはまったく違ってくる。すぐれた教育者、指導者はどこかよいところを見つけて、そこへ道をつけておく。批評された側では、多少、けなされていても、ほめられたところをよりどころにして希望をつなぎとめることができる。

全面的に否定してしまえば、やられた方ではもう立ち上がる元気もなくなる。自分でダメだと言うのでさえひどい打撃である。ましてや他人からダメだときめつけられたら、目の前が真っ暗になってしまう。

お互いに自分の過去をふりかえって、とにかくここまでやってこられたのはだれのおかげかと考えてみると、たいていは、ほめてくれた人が頭に浮ぶのである。ある老俳人は、ほめられたからこそ、ここまで進歩したとしみじみ述懐している。ほめてくれた批評によって伸びた。けなされたことからはほとんど裨益ひえきされなかった(注2)というのである。

友には、ほめてくれる人を選ばなくてはいけないが、これがなかなか難しい。人間は、ほめるよりもけなす方がうまくできている。いわゆる頭のいい人ほど、欠点を見つけるのがうまく、長所を発見するのがへたなようである。

ほめられると、われわれの頭は調子に乗る。つい勢いついて、思いもかけないこと

が飛び出して来る。(中略—引用者)

見えすいたお世辞のようなことばをきいてどうする。真実に直面せよ。そういう勇ましいことを言う人もあるが、それは超人的な勇者である。平凡な人間は、見えすいたことばでもほめられれば、力づけられる。お世辞だとわかっている、いい気持になる。それが人情なのではなからうか。

われわれは、どうもお世辞を言うのにてれる。見えすいたことを口にするのを恥じる。しかし、どうせ、あいさつには文字通りの意味はないのである。朝寝坊した人でも人は「お早よう」と言う。ほめるのは最上のあいさつで、それによって、ほめられた人の思考は活潑^{かっぼつ}になる。

(注) 1 称揚する…ほめたたえる 2 裨益する…役に立つ

(出典) 外山滋比古『思考の整理学』ちくま文庫 1986年 pp.148-151

(設問の都合により、本文の一部を省略・改変している)

【条件】

- ① あなたの考えを、4段落以上で述べること。
- ② 600字以上、800字以内で書くこと(改行や一字下げによる空白も字数に含む)。
- ③ 第1段落は、【文章】の筆者の主張を要約して示すこと。書き出しは「この文章で、筆者は…」とすること。
- ④ 第2段落は、「たしかに…」で始め、筆者の主張に対して一定の理解(肯定)を示すこと。
- ⑤ 第3段落以降は、筆者の主張と対立させて、「否定する」ことの意義や必要性、効果的な「否定の仕方」について、あなたの考えを述べること。
- ⑥ 第3段落は、「しかし、私は…」で始めること。
- ⑦ 第2段落以降のどこかに必ず具体例を含むようにすること。自身の経験に限らず、伝聞したことや想定したことでもよい。
- ⑧ 【文章】の一部を引用するときは、必要最小限の長さにとどめること。その際、「」(カギカッコ)を用いて引用部分を明示すること。出典情報は記載しなくてよい。